

日本共産党埼玉県議団ほっとNEWS

2012年度NO. 20

2012年9月10日 日本共産党埼玉県議団

安心してお産をしたいのに！ 地域周産期母子医療センターの休止？？？ 塩川議員・柳下県議ら西埼玉中央病院を訪問

西南部地域のリスク出産に対応する地域周産期母子医療（胎児未熟児・母体の医療）センターである国立病院機構西埼玉中央病院（所沢市）の周産期機能休止の可能性があるという報道を受け、塩川鉄也衆議院議員と柳下礼子県会議員、城下師子所沢市議は7日同病院を訪問しました。梅村早江子準中央委員、伊藤岳党埼玉県委員会常任委員、辻源巳党西南地区常任委員らが同行しました。

病院側は池内健二院長らが対応しました。

塩川議員と柳下県議は数年前に同病院を訪れ、前院長からNICU（新生児集中治療床）を6床から9床に増床して、総合周産期母子医療センターに進みたいという計画を伺っていました。

新生児専門医はたった10人

院長は「新生児担当医師2人が9月いっぱい退職の意向を表明した。今、後任を全力で探しているところだ。しかしそもそも新生児専門医は非常に少ない。埼玉県に10人。東京都にも25人しかいない。国立病院機構に医師の派遣を要請したが、まだ見つからない。

（院長の）母校にも頼んだが他の病院への派遣で手一杯だ。県は、大学病院から派遣を決めてくれれば補助金は出すと言っている。寄附講座といって3000万円（年）の内、半額を県が出し残額を法人が出す仕組みだが、和光市の埼玉病院の場合残額を関係市町が出してくれる。今回もそうしていただくとありがたい。

NICU増えたが医師は増えず

当病院はNICUを6床から9床に増やしたが、医師



の体制は増員できなかった。周産期は誰かが必ず当直をしなければならないので、2人で代わるがわる当直をしていた。本当ならNICU3床で2人は医師がほしいぐらい。9床なら5人は必要だ。新生児専門医は結婚などできないぐらい激務。しかし、分娩には診療報酬がつくが新生児専門医には診療報酬がつかない。**医師の偏在というがどこに医師がいるのか？**

新生児専門医も麻酔医も医師が本当に足りない。よく、医師の偏在と言われるが、東京と隣接の所沢にもいないし、東京にもいない。どこに医者はいるのか？医師の絶対数が足りない。埼玉県には医師養成学校が少なすぎる。」と語りました。

国立病院機構の幹部職員の給与削減許されない

塩川議員は「医師不足で勤務医の処遇は大変な状態なのに、国家公務員にならって給与は減額される。（幹部職員のみ）10%もの給与削減は許されない」とい発言に院長らは深く頷いていました。